

鏡川流域パートナーシップだより No.51 R5.5.11



鏡川流域
パートナーシップ
KAGAMIKAWA LOCAL AREA PARTNERSHIP

新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

太平洋学園高等学校とのパートナーシップで関わりの創出！



5月1日(月)に行われた太平洋学園高等学校の新入生歓迎行事「太平洋フェス」にて、生徒の皆さんや先生方がまちのコイン「ぼっちり」を活用しながらカップケーキの販売を行いました！

以前、「ぼっちり」のスポット「Café satobito」でのイベントに参加した太平洋学園高等学校の先生が「ぼっちり」に興味を持ってくださり、太平洋学園高等学校内での「ぼっちり」の活用を検討して下さったことがきっかけで、今回の活用に至りました。

「ぼっちり」で作成する体験チケットには、貢献しようとしているSDGsの目標を紐づけることができます。体験とSDGsの関係がアプリで可視化されることで、活動を「自分ごと」として捉えて主体的に取り組んだり、身近な活動がSDGsに貢献できていることを知ったりするきっかけになります。

今回は「太平洋フェス」をスポットとして登録し、カップケーキの感想を教えてくださいました人にぼっちりを付与する体験などが発行されました。多様な人の関わりや協力によって楽しい学校行事にしようという思いから、この体験にはSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」と17「パートナーシップで目標を達成しよう」が紐づけられています。



太平洋フェス当日、カップケーキのお店を訪れた生徒さんや先生方が「ぼっちり」の体験チケットを利用し、来店者限定のぼっちりを受け取っていました。今回「ぼっちり」の活用を提案して下さった太平洋学園高等学校の先生が「自然やボランティアなど、自分の興味のあることに役立てることができるアプリ」と言って「ぼっちり」を生徒さんに勧めて下さっていました。今後も「ぼっちり」の活用によって太平洋学園高等学校の生徒の皆さんの自主的な活動や、自然と人との関わりを後押しし、鏡川流域関係人口の拡大につなげていきます！



太平洋フェスの前日にも、多様な関わりが生まれていました。生徒の皆さんたちは販売用のカップケーキ作りを行うため、Café satobitoを訪れました。その際、高知大学生もカフェを訪れ、「ぼっちり」の体験チケットを発行しながら太平洋学園高等学校の生徒さんたちと交流する場面がありました。「ぼっちり」のスポットで生まれた出会いや関わりが今後も拡大していくことを期待しています。



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android